

# リベラルアーツ b (哲学と医療)

【単位数: 1 単位, 授業 13 コマ】

## 1 科目責任者

川崎 優 講師(哲学)

## 2 教育目標

### (1) ねらい (I-2-c, I-4-c)

- ① コンピテンスである「プロフェッショナリズム」を修得するために、ディスカッションでの対話をとおして多様な価値観について学ぶと共に、倫理原則に基づいた哲学的議論について批判的に検討する力を養う。
- ② 哲学の語彙や議論の概要を理解し、答えのない問いについて考え続けるための基盤を養う。

### (2) 学修目標

- ① 医療技術の進歩がどのような倫理的問題をもたらしうるか説明できる。
- ② 遺伝子操作やエンハンスメントをめぐる哲学的議論を説明できる。
- ③ 遺伝子操作やエンハンスメントに対する自分の考えを論理的に説明できる。

## 3 成績の判定・評価

### (1) 総合成績の対象と算出法

|       | 成績対象 | 割合   | 方法・コメント  |
|-------|------|------|--|
| 小レポート | ○    | 100% | 毎回の講義で課すリアクションペーパーの内容を評価する。<br>【再評価について】<br>やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席時の対応について科目責任者へ問い合わせること。 |
| 態度    | ○    | —    | 態度不良の場合は、総合成績から10点を限度に減点をする。   |

出席: 単位を修得するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

### (2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

### (3) 再試験・再評価の方法

課題・レポートを課す。60%以上を合格とする。

### (4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

リアクションペーパーの内容に対して、講義内でフィードバックを行う。

## 4 教科書

| 書名                                  | 著者名       | 出版社     | 教科書として指定する理由                           |
|-------------------------------------|-----------|---------|--|
| 完全な人間を目指さなくてもよい理由—遺伝子操作とエンハンスメントの倫理 | マイケル・サンデル | ナカニシヤ出版 | 遺伝子操作やエンハンスメントをめぐる倫理についてわかりやすく述べられている。 |

## 5 参考図書

| 書名                   | 著者名       | 出版社     | 参考図書とする理由                                    |
|----------------------|-----------|---------|--|
| 人間(改良)の倫理学—合理性と遺伝的難問 | マッティ・ハユリュ | ナカニシヤ出版 | 授業内で扱う遺伝子操作をめぐるトピックについて、より具体的な哲学的議論が詳説されている。 |

## 6 準備学習（予習・復習）

教科書の該当箇所を読んで予習・復習を行うこと。（1コマあたり約1時間）。

## 7 授業計画

### （1） 講義の方法

講義以外にも討論・質疑応答などの対話型講義方法を導入する。

### （2） 講義の内容

はじめに映画「ガタカ」を視聴することで、遺伝子操作やエンハンスメントが発展した世界のイメージを共有する。その後、教科書の読解や意見交換をととして、遺伝子操作やエンハンスメントをめぐる哲学的議論への理解を進めていく。